

THE MONTHLY NIHONGO/特集 外国人に日本語を教えてくださいませんか

月刊

日本語

日本語を教えた
あなたに贈る応援マガジン

04

2010 APR

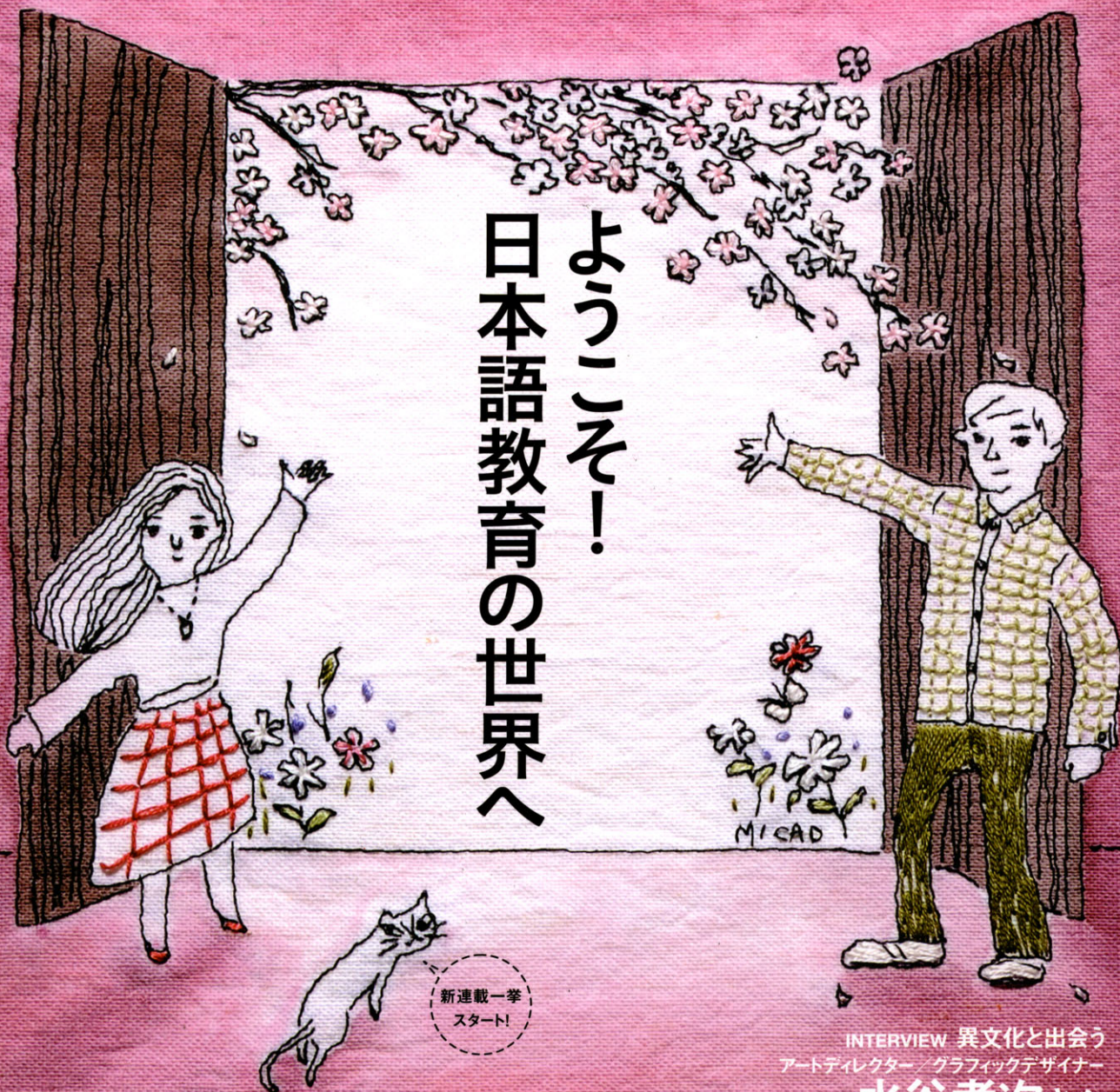
月刊日本語

APR 2010

04
2010

日本語を教えたあなたに贈る応援マガジン
ようこそ！ 日本語教育の世界へ

平成22年4月1日発行(第23巻第4号・通巻268号) 毎月1回1日発行・昭和63年6月5日第三種郵便物認可



ようこそ！ 日本語教育の世界へ

新連載一挙
スタート!

INTERVIEW 異文化と出会う
アートディレクター/グラフィックデザイナー

水谷孝次さん

「世界中の笑顔とやさしい言葉を
ポスターにしたかった」

日本語教師のためのブラッシュアップ講座特集
現場で役立つ実践力を付けよう!



NAEL 日本語教師養成プログラム

ALC PRESS INC. / THE MONTHLY NIHONGO



平成22年4月1日発行(第23巻第4号・通巻268号) 毎月1回1日発行 昭和63年6月5日第三種郵便物認可
発行人○平本照彦 編集人○新城宏治 発行所○株式会社アルク 〒168-8511 東京都杉並区水元2-5-1-2

特集

ようこそ! 日本語教育の世界へ

月刊日本語
APRIL 2010



COVER STAFF
Illustration: MICA O
Photo: 島崎信一
Design: Store Inc.

- 12 ライター白石の日本語教師1日体験記
17 こぐま准教授の特別講義 学習者からの質問に答える
22 日本語教育の「今」を知る！ 24 ここが知りたい 日本語教師FAQ
26 座談会 私たちが日本語を教えている理由

4 「異文化と出会う」

アートディレクター／グラフィックデザイナー

水谷孝次さん

- 1 1/30,959の物語
2 **新** 季節を知る・和の食べ物
8 **新** 全国 日本語教育の旅「東京」
10 日本語教師のたまごたち
11 吉田紀子さんのことばのココロ「100歳まで！」
32 日本語力養成所 町田 健
34 出撃!! 日本語探偵団
「オイスター? セクスター?」 出野見子・西川寛之
36 **新** 前略、先生、お尋ねします……。
師弟よもやま対談
「ゲスト 嶋田和子 & 隈井正三」(前編)
39 ベテラン教師の授業が見たい!
日本語の教え方
「「~たらどうですか?」の授業」
43 日本語教師が知っておきたい
外国人に関する法律知識
「結婚と国籍」 小松原祥一
44 広告特集 日本語教師のためのブラッシュアップ講座特集
現場で役立つ実践力を付けよう!
48 それいけ! 検定キーワード戦士トリセツマン
「アカルチュレーション」 青山 豊
49 次世代教師の賢い手抜き術
「ワードの基礎を身に付けよう!」 村上吉文
52 **新** みんなの悩みを解決! GNレスキュー隊
54 **新** 日本語教育業界の仕事「日本語教育専門書店員」

- 56 中国人・韓国人の不思議
「スポーツ」 杉山 明・石下景教・桑畑優香
58 世界各国リレー中継「米国(ハワイ)」 フライ暁子
60 The view of frontiers ニッポンに暮らす
「胡逸飛さん」 杉山 春
64 田尻英三のオピニオン
65 GN編集部員の気になるNEWS
66 日本語教育タイムズ
68 **新** 迷える新人さんたちのための
現代日本語教育の基礎知識
「EPA」 隈井正三
70 **新** 知っているようで知らない? 現代日本事情講座
ニッポンの仕組み
「小学校の英語教育」
74 書評 香山リカ
75 新刊
76 インフォメーション
77 アルクインフォメーション
78 読者の広場
80 次号予告/バックナンバー
81 NAFL編集部員の
迷わず試せよ、試せばわかるさ
88 日本語教育能力検定試験 めざせ! 合格
「基礎編③音声・音韻」

アルクの **WOW!**
キャラクターです (クワイ)

WOW!は、WORLDWIDEから生まれたアルクのシンボルキャラクターです。遠くをふれあいを求める人間の心を象徴する。言わば、地球人のシンボルです。



<http://alcom.alc.co.jp/>
学んで教える人材育成コミュニティ・サイト



物質主義の時代を経た日本から 新しい「幸福論」を世界へ！

バブル景気に沸いた80年代、売れっ子デザイナーとして大手企業の広告を数多く手がけていた水谷孝次さん。しかし、そんな栄光の真只中で感じたのは虚しさだった。悶々とした日々を経て出会った「笑顔」。時代の先を見つめるクリエイターの第2幕が始まった。

取材・文〇佐藤淳子

水谷孝次

（アートディレクター／グラフィックデザイナー）

笑顔は世界共通の コミュニケーション

二年前の北京五輪の開会式。式典の最後に会場を埋め尽くした「笑顔」を覚えているだろうか。スタジアムを囲む巨大スクリーンに映し出された世界の子どもたちの笑顔。フィールドには、一つひとつに笑顔をプリントした二〇〇八本の傘が開き、感動の光景が広がった。式典の総監督を務めた張芸謀（チャン・イーモウ）氏に笑顔の写真を提供したのが、アートディレクター、水谷孝次さんだ。

一九八〇年代、水谷さんは大手企業の広告を一手に引き受ける売れっ子デザイナーだった。多くの

挫折を経験した下積み時代を経てつかんだ富と名声。しかし億単位のお金が動く厳しくも華やかな世界で感じたのは虚しさだった。水谷さんは、商業主義の真只中で立ち止まる。本当にこれがやりたいことだったのか、と。

そして、長らく続く悶々とした時期を経て行き当たったのが、「笑顔」だった。アメリカ旅行中、バスの中で出会った少女たちの無垢な笑顔に光を見る。この笑顔こそ世界に通用するコミュニケーションではないか。二十一世紀は笑顔のコミュニケーションの時代になる！ そう直感した水谷さんは、一〇年がかりで見つけた宝物を大きなプロジェクトに育てていく。

世界各地に足を運び、人々に「あなたにとってMERRY（楽しいこと、幸せ）とは何か」と問い掛けながら笑顔を撮影。東京・原宿での展示会を皮切りに、震災後の神戸、9・11後のニューヨーク、そして愛知万博などで笑顔の展示を行い、各地で評判を呼んだ。

「人々の笑顔とやさしいメッセ

ージをボスターにしたかったんです。後から知ったことですが、これは、奇しくも二五〇〇年前にブツダが言った『和顔愛語』そのものの。笑顔とやさしい言葉を与えれば、笑顔とやさしい言葉が返ってくるということなんです」

世界中で集めた笑顔の写真は、自ら働き掛けた水谷さんと、それに感銘を受けた張芸謀氏の熱意によって北京五輪開会式に採用され、世界から脚光を浴びることになった。

こうした笑顔は、水谷さんが自ら撮影しているものだ。モデルやタレントのようにカメラ慣れした笑顔ではない。もしかしたら生まれて初めてカメラに向けて微笑んだ顔もあるかもしれない。しかし、どの笑顔も、驚くほど美しい。

「笑顔を撮るコツはありません。あえて言うなら、純粹な気持ちを保つことかな。一応、現地の言葉は覚えていくんですよ。挨拶と『ありがとう』『笑って』くらいはね。でも、何カ国も回っているうちに、わからなくなっちゃって、別の国

の言葉を話したりする(笑)。でも、そこからまたコミュニケーションが生まれたりするんです。結局、コミュニケーションは気持ち。本当にそう思いますね。その代わり僕がピュアな気持ちでいないと、絶対にピュアな笑顔は返してくれない。こちらからあらん限りの愛を解き放って、あらん限りの愛を受け取る。ジャズのセツションみたいなもの。太陽の下ですうっと笑いながら撮影してたら、日焼けしてシマウマみたいな顔になったこともあるんですよ(笑)」

しかし、笑顔を撮った人の数三万！撮影に訪れた国は世界二十五カ国に及ぶ。純粹な気持ちを保つのは並大抵なことではなさそうだ。気持ちがぶれそうになつたとき、戻る原点はどこなのだろう。

「僕は、戦争で障害を負って変わってしまった父を見てきたし、それで暗くなった家というものも経験した。だから、家族や社会を明るくしたいという子どもの頃の思いが常にあるんです。平和への思いも。自分の生まれや育ちが違

っていたら、今のような活動はしていなかったでしょう。自分の運命は利用しないとつたいたい。今はそう思っています」

**あなにとつてMERRYとは？
その答えから国の状況が見える**

恵まれない環境にいる子どもたちほど、輝く笑顔を見せると語る水谷さん。プロジェクトを通して、笑顔は、言葉や文化を超えたコミュニケーションツールであると感じる一方、その笑顔やメッセージから教えられることも多い。

「あなたにとつてMERRYとは？」——これはある意味、魔法の質問である。その答えによつて、その国の状況がわかるからだ。

「例えば、アフリカの子どもたちは、『雨が降ること』と答える。日本の子どもたちにとつてみれば雨は面倒なものでしょうが、アフリカでは、草木を潤し、生命を育む恵みの雨。一方、パリのソルボンヌ大学の前で聞けば『MERRY Y』ということを考えること』なんていう哲学的な答えが返ってくる



KOJI MIZUTANI

1951年、愛知県生まれ。1977年、日本デザインセンター入社。1983年、水谷事務所設立。1980年の東京ADC賞を皮切りに国内外で数々の賞を受賞。1999年から「MERRY PROJECT」スタート。2005年の愛知万博、2008年の北京五輪開会式にも参加。これまで世界25カ国で3万人以上の笑顔撮影している。2009年には、インドネシア・バンドアチエにて「Merry Umbrella Project」を開催。

る。議論が格好の酒の肴さかなになるお国柄だからでしょう。これほど環境は違うものなんです」
 こうした交流の中で、日本のことを考えさせられることも多い。
 「日本の子どもたちにMERRY Yは何かと聞くと、よく『金持ちになること』という答えが返ってきます。彼らはシャイでおませ。親たちがお金で争ったりしたりしているのを見て、純粹さを失って



「MERRY PROJECT」とは、「笑顔は世界共通のコミュニケーション」を合い言葉にMERRY(幸せ)の輪を広げていくソーシャル・コミュニケーション・アート。北京五輪開会式(上段)、六本木ヒルズ(下段)、地震と津波の被災地インドネシア(中段右)など、世界各地でプロジェクトを展開。農業にも関心を抱き、Merry Farmingと銘打ったグッズも販売中(中段左)。



いるのかもしれないね。日本は高度成長の時期、欧米のものを追い掛け、真似まねをして、上を目指してきました。東洋の外れの島国で生きていく危機感も、本来の日本の良さも忘れていた。商業主義、物質主義の時代を経た僕たち日本人は、改めて幸福とは何かということを考え直さないといけない時代に来ているんじゃないでしょうか。環境問題や平和に対する考え

方も含め、日本独自の新しい幸福論、世界のモデルになるような生き方を、日本は世界に発信すべきだと思います」
 水谷さんの歩みはとどまるところを知らない。MERRY Yを世界に発信していくとともに、農業や環境問題とリンクさせる試みも行っている。岐阜県郡上市、愛知県犬山市などは、ともに地方の活性化プロジェクトを推進中だ。
 「これからは、孤立した活動ではダメ。行政や企業などいろいろな所とつながるべきだと考えています。僕一人の活動なら、ただの道楽ですから」
 デザインも変わっていかなくてはいけないと水谷さんは言う。
 「デザイナーの仕事は、紙やウェブの上のものと思われがちですが、そうじゃないですよ。デザインは、人々に勇気や希望を与えて、平和のために存在するものであり、人や社会を幸せにすることだと思ふ。だから造形の美しさではなく、社会をどう変えているかで評価されるべき。キャンパスは

街であり地球なんです」
 二十一世紀に入り、日本人は今まで求めてきた物質的な豊かさが必ずしも幸福には結び付かないことに気付きはじめた。パブルの真只中で一足先にそのことに不安を覚えたのが水谷さんだったのだらう。そして始めた新たなデザインワークは、一〇年という年月を経て、今、さまざまな形で発展を遂げている。日本、世界、そして地球をキャンパスにして。

『デザインが奇跡を起こすー「思い」を「カタチ」にする仕事術』好評発売中！

父に戦争の爪痕を見た幼少期から挫折を経験した下積み時代、成功の中で空虚感を覚えたバブル期、「MERRY」との出会いまで、自らの半生を振り返り、デザインへの思いを熟く語った一冊(水谷孝次著/PHP研究所/1,470円)

水谷孝次

「思い」を「カタチ」にする仕事術

デザインが奇跡を起こす

PHP研究所

